

# Book Reviews

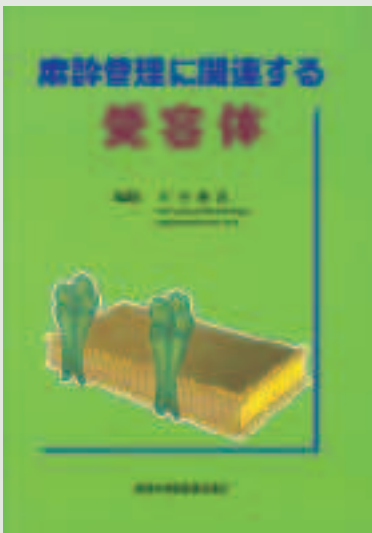
[自著紹介]



本書を編集するにあたり、12名の麻酔科医と13名の基礎医学の専門家に原稿を依頼した。各執筆者には、「図表を駆使して分かりやすく解説していただき、臨床にすぐ役立つ内容になるよう」お願いしたが、各執筆者の努力のおかげで、読みやすい本ができたと自画自賛している。また、本書は「麻酔管理に関連する受容体」という表題でまとめられているが、本書で取り上げた受容体は麻酔管理にのみ関連するものではなく、麻酔科以外の臨床科の医師、あるいは基礎医学の研究者達にも興味をもって読んでもらえる本ではないかと思っ

読みやすい本ではあるが、細分化した受容体、複雑な情報伝達系のため、内容は難解である。本書は総論と各論からなり、総論は、「細胞膜の構造と機能」「受容体総論」「細胞内情報伝達」「細胞膜の選択的物質移動」「受容体・チャネルと麻酔」の5章からなる。各論は、「アドレナリン受容体」に始まり、全26章からなる。まず、総論の5章を繰り返し読んで理解していただいた上で各論に入っていたら、各論を読んでいて分からなくなったらまた総論にもどるといった読み方をしていたら、難解な内容でも理解していただけると思っ

受容体に興味があっても、本書を繰り返し繰り返し読んでもらえば、受容体を理解し、受容体について興味が出てくるものと確信している。その結果として、立派な臨床医の育成、あるいは医学の進歩に本書が貢献できることを切望して止まない。



医学部医学科教授  
**大下 修造** [おおした しゅうぞう]  
『麻酔管理に関連する受容体』

出版社:  
真興交易(株) 医書出版部

この本は大学初年度の学生向けに書いた情報科学のテキストです。「コンピュータリテラシー」に重点を置いた「改訂版」これならできる情報リテラシー」の姉妹書として平成15年4月に出版しました。高度情報通信ネットワーク社会の発展とともに情報機器の活用だけでなく情報収集・選択・活用能力と情報発信能力の向上に重点を置いて、総合科学部の伊藤利明、中山慎、森太郎、掛井秀と共著で書きました。他の教育機関で教科書として採用された「これなら

できる情報リテラシー」と同様に、いろいろな学校でテキストとして採用されることを願っています。

情報科学のテキストとして利用しやすいように、各節は一回の講義・実習に相当する量の説明とその演習問題という構成です。説明部分は、初めての人にも十分理解でき、操作の不明な点がないよう工夫しました。今後、大学生が身に着けなければならない「メディア・リテラシー」の獲得に向けて「メディアを主体的に読み解く能力」、「メディアにアクセスし、活用する能力」、「メディアを通じてコミュニケーションを創造する能力」の向上に関係した資料を付録として付け加えました。

総合科学部自然システム学科教授  
**大橋 守** [おおはし まもる]  
『マスターしよう 情報リテラシー』

出版社: 学術図書出版社  
価格: 1700円

